

あきらめない根性と資金を

起業の意欲と心構え学ば

アントレプレナーセミナー 250人受講

学生に起業家精神の芽を育てる「アントレプレナーセミナー」金沢学院大学は三十日、四号館講堂で開かれ、経営情報学部約二百五十人が起業のヒントと心構えなどを学びました。講師の若手経営者は「あきらめない根性とできるだけ多くの資金を」「客を喜ばせたいという思いが大切」などとアドバイスしました。



事業を始める心構えを学んだセミナー＝講堂

クリエータポータルサイト運営会社「ソフトワーク」の創業者・取締役の林千晶氏、ソフト受託開発「サイバーステーション」代表取締役の福永泰男氏、ソフトウエア開発「CGRIP」取締役CTOの不破守康氏の三人が基調講演で、創業のきっかけや苦勞話を披露しました。



林 千晶氏



福永泰男氏



不破守康氏

ていた時にいろいろな起業家を取材して触発されたこと、福永氏は人との出会いや信念を曲げないことの重要性、不破氏は一人できないことでも人を集めたら可能になることなどを話しました。

パネル討論では、根本博学長補佐が司会を務め、講師三人の人間像や経営理念を引き出しました。

この中で不破氏は、アントレプレナーセミナーの主催者である石川県産業創出支援機構のサポートで様々な企業と出会えたこと、福永氏は受託でシステムを組み七月一日からスタートとなった情報サイト「こみみ」の取り組みなどを紹介しました。



講演する大樋学部長

陶芸は 一対一の対決

大樋学部長が公開講座

金沢学院大学美術文化学部の公開講座は六月二十七日、石川県立美術館ホールで行われ、大樋学部長が「日本は陶

芸天国などと言われるが、まだ世界に雄飛したとはいえない」と指摘し、「一対一で対決する姿勢がないとだめ。安易にボディを作っただけではいけない」と強調しました。自作を含め国内外の作品百九十三点をスライドで紹介しました。



金沢学院大学文学部の公開講座は六月二十七日、金沢市西町教育研修館で開かれ、水洞幸夫助教授、節助教授「写真」が「お金をめぐる想像力」の統一テーマで講演しました。

水洞助教授は、芥川龍之介が関東大震災の前後に「保吉もの」という十作品を書いていて、その背後に、物と金が大衆消費社会に、人はどう向き合えばよいのかとい



講義は六月二十八日、四号館講堂で行われ、法政大講師の河内隆幸

氏「写真」がフランスにおけるデジタルメディアの最新の動向とコンピュータ・グラフィックス作品を上映しました。

受講した学生は、フランスの学生が手がけた作品のユニークな視点や配色、画面構成に見入りました。

お金にまつわる作品を考察

文学部 公開講座 水洞、節助教授講演

「う真摯な問いが存在する」と指摘しました。

節助教授は、大正時代はジャーナリズムの発達と読者の拡大で小説家の生活が安定した。「文壇黄金時代」だった」と説明した上で、原稿が少ない葛西善蔵と「饅舌体」で多くの作品を書いた宇野浩二の人物や作風を紹介し、受講者は大正文学に思いをはせました。

文学部公開講座日程

- 7月25日午後1時半 (金沢市西町教育研修館) 林暁光教授、中西茂行教授
 - 8月8日午後2時10分 (新潟東急イン) 木梨由利教授
 - 9月5日午後1時 (高岡文化ホール) 山下久夫教授
- 申し込み、問い合わせは文学部兼宮室、☎076(2229)8874へ。

発行・広報室